

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	ケガの手当 2	
科目基礎情報							
開設学科	柔道整復科		コース名			開設期	後期
対象年次	2年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位		授業形態	講義			
教科書/教材	教科書（柔道整復理論編 一般社団法人 全国柔道整復学校協会 監修一）に準拠する。						
担当教員情報							
担当教員	本澤 光則・小西 裕司・青木 伊之・宮本 功三			実務経験の有無・職種	有・柔道整復師		
学習目的							
柔道整復師の業務範囲である骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷を実際の臨床現場で診るにあたり、1年次に学習した基礎的な解剖学知識を復習・応用させ、実際の外傷とどのような結びつきがあるのかを学ぶ。具体的には、運動器頭部、体幹、上肢、下肢のそれぞれの部位で骨折、脱臼等が起こった場合の骨や筋、その他軟部組織の状態(骨片の位置、筋や靱帯の損傷程度)、起こりうる合併症・続発症・併発症や、各々の外傷に対する適当な固定方法（固定肢位、使用固定材料を含む）、更には、後療法（日常生活動作の注意点等）について深く熟知することがねらいである。							
到達目標							
単に、人体各部位の名称を漠然と覚えるのではなく、各部位の具体的な特徴を捉える。（例として骨であれば、骨名以外にも筋の付着部の起始停止や切痕・神経溝・粗面など。）そのために標本模型などを用いて、教科書上に記載の無い視点からのスケッチを行うなど積極的に文字のみならず絵で三次元的な理解を深める。解剖学の知識を持って外傷の発生から治癒に向かう過程のメカニズムをしっかりと把握することを到達目標とする。また、この授業を元に自学自習の精神や姿勢を身につける事も目標とする。							
教育方法等							
授業概要	ケガの手当では解剖学を主として、骨の名称や関節、筋肉の起始・停止などを理解し、患者さんへ説明に用いることができる学問である。骨折・脱臼・捻挫・打撲・挫傷等と解剖学の結びつきを理解し、発生機序から後療法までの基礎知識を習得する。						
注意点	医療人としてのキャリア形成の観点から、授業中の私語や医療現場にふさわしくない受講態度、振る舞いなどには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。また、授業時間数の4分の3以上出席しないものは定期試験を受講することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	100%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	0%					
	レポート	0%					
	成果発表 (口頭・実技)	0%					
	平常点	0%					
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容		各回の到達目標				
1回	初期総論 1		業務範囲の確認と骨折と脱臼について理解する。				
2回	初期総論 2		前回は踏まえた上での捻挫、打撲、挫傷についてを理解する。				
3回	頭部で発生する外傷		主に顎関節脱臼や下顎骨の骨折について理解する。				
4回	上肢で発生する外傷 1		上肢帯における骨折や脱臼について理解する。				
5回	上肢で発生する外傷 2		上腕～前腕における骨折や脱臼について理解する。				
6回	上肢で発生する外傷 3		手関節～手指部における骨折や脱臼について理解する。				
7回	振り返り（1）		1回～6回までの振り返り				
8回	体幹で発生する外傷 1		頸部～胸部における骨折や脱臼について理解する。				
9回	体幹で発生する外傷 2		腰部における骨折や脱臼について理解する。				
10回	体幹で発生する外傷 3		体幹部での外傷による内臓器の損傷の注意等について理解する。				
11回	下肢で発生する外傷 1		寛骨～大腿骨部における骨折や脱臼について理解する。				
12回	下肢で発生する外傷 2		膝関節を含む脛骨、腓骨～足関節部についての骨折や脱臼について理解する。				
13回	下肢で発生する外傷 3		足関節部～足指についての骨折や脱臼について理解する。				
14回	振り返り（2）		8回～13回の振り返り				
15回	1年間の総まとめ		1年間までの範囲を全体通しての振り返り				